

資料 1

次世代技術を活用した新たな電力プラットフォームの在り方研究会の 開催について

平成30年10月
資源エネルギー庁
電力・ガス事業部

電力ネットワークが直面する課題は、系統需要の伸び悩みによる収入の低迷、系統設備の高経年化対策の本格化に加え、大規模災害対応を含むレジリエンスの強化、再生可能エネルギーの「主力電源化」への対応等、多様化・複雑化している。

このため、足下では、既存系統を最大限に活用しつつ（日本版コネクト&マネージの具体化等）、安定供給性、環境適合性、効率性（3E）の更なる高度化に向け、新たな電力ネットワークへの転換が必要な状況にある。

とりわけ、テクノロジーの進展と、電力ネットワーク分野にも新たなビジネスの出現の兆しが表れているところ、これらが、

- ①安定供給：系統のIoT化・データ活用による需給管理の高度化
- ②環境適合：EVや蓄電池などの新たな分散リソースによる低炭素化
- ③経済効率：アグリゲーションやP2P等の新ビジネスによる多様・低廉な電力供給へ貢献することが期待されており、既存の電力ネットワークの高度化を含め、これらの実現を支える新たな基盤（プラットフォーム）が求められると考えられる。

この際、電力ネットワークへの投資は巨額・長期であり不可逆性が高いことを踏まえれば、これらの課題や論点については、2030年以降も見据えた中長期的視点に立ち、早急に整理を行っていくことが必要になる。

このため、「次世代技術を活用した新たな電力プラットフォームの在り方研究会」を開催し、これらの実現に向けた課題や論点について、テクノロジーや新ビジネス等の新たな知見も得るべく、電力以外の有識者やヒアリングも交え、様々な視座から検討を行う。